

平成29年度 学校関係者評価委員会の報告を受けて 次年度に向けた改善方策

1 「基礎・基本の定着と質の高い学びを培う」について

- (1) 生徒に「何を教えたか」から、生徒は「何を学んだか」という視点での授業づくりを推進するとともに、個に応じた指導を充実させ、「生徒たちが学ぶことを好きになる授業」の実践を通して、学び甲斐を感じ、学ぶ意味を自覚させることで、「学ぶ喜び」を実感し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- (2) 各教科で繰り返しの学習や補充学習、教え合い・学び合い学習を充実させ、生きて働く知識及び技能の確実な習得を図る。また、指導方法や学習形態の工夫改善により、発展的な課題に取り組み、他者と考えを共有しながら思考を深め、「見方・考え方」の伸長を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成する。
- (3) ICT を効果的に活用した分かりやすい授業を教科の特質に応じて展開し、学習意欲や知的好奇心、情報モラル、ICT 操作スキルを高めるとともに、対話的な学びを充実させ、「なぜ」「どうして」から解決に至るまでの「学びの深まりと広がり」を体感させる。
- (3) 数学、英語で少人数授業を実施し、習熟度に合わせた学習をガイドラインに沿って推進する。さらに、東京ベーシックドリルの活用や補習教室等の充実による個に応じた学習の支援を進める。

2 『NIEタイム』－土曜日の朝は、みんなで新聞を読もう－の充実について

- (1) 玄関にあるNIEコーナーをさらに拡大・充実させ、キャラクターの設置とともに、新聞への興味が高まり、立ち止まって記事に目を通したくなるような工夫をする。
- (2) 年間を通して、毎日、各学級に新聞を配布し、いつでも身近に新聞がある環境を創る。担任や日直、NIE係等が気になった記事を学活等で取り扱ったり、発表したりするなど新聞の楽しさを広げる。
- (3) NIEタイムやNIEウィークの設定、新聞を活用した学習の充実などのNIE活動を推進し、最新の情報やデータから、現実の社会やそれに対する様々な見方や考え方を理解することで、情報の選択・活用能力や多角的な判断力、思考力を身に付けたシチズンシップをはぐくむ。

3 「世田谷9年教育『船橋希望学舎』の活動」について

- (1) 学舎合同学校協議会を開催し、小中学校の地域の連携を図るとともに、船橋希望学舎の地域全体として、子どもたちを育てる風土を醸成する。
- (2) 学舎合同家庭教育学級を開催し、小中のPTA活動の連携を図るとともに、学舎の保護者の家庭教育力の向上をめざす。
- (3) 「あいさつキャンペーン」では、地域や保護者と連携するとともに、中学校の生徒会役員や生活委員を中心に小学校の校門に立って交流を行う。
- (4) 世田谷マネジメントスタンダード「世田谷9年教育」の理念を踏まえ、小中学校で協働し、教科等でのICTを効果的・効率的に活用した教材の開発と言語活動やアクティビティ等の充実を推進し、船橋希望学舎の児童・生徒の学力の向上と指導と評価の一体的な改善を図るとともに、中学校入学時の安心感を高める。